



ひつじ書房

おすすめ書籍のご案内

コード	シリーズ名	書名	編著訳者名	本体価格
国語教育ほかおすすめ				
1108		自由研究 ようこそ！ことばの実験室（コトラボ）へ	松浦年男著	1,400
1035		「問う力」を育てる理論と実践	小山義徳・道田泰司 編	2,800
1041		「書くこと」の授業をつくる 中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科＋千葉軒士著	2,400
1089		これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版]	佐渡島紗織・吉野亜矢子 著	2,000
1082		あらためて、ライティングの高大接続	渡辺哲司・島田康行ほか著	2,200
1085		ビジネス文書の基礎技術	石黒圭・熊野健志編	1,400
1027		中高生のための本の読み方	大橋崇行著	1,800
1075		明治・大正期国語科の成立と修身科との関わり	山本康治著	6,200
1084		明治期の幼稚園教育と童話	北川公美子著	7,200
662		明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究	府川源一郎著	19,000
860		学校教育の言語	メアリー・シュレツペグレル著 石川彰、佐々木真、奥泉香ほか訳	3,200
908		国語科教育に求められるヴィジュアル・リテラシーの探究	奥泉香著	5,300
896		メタ言語能力を育てる文法授業	秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦編	3,600
938		読書教育の未来	日本読書学会編	5,000
新刊				
1003		大学が地域の課題を解決する	白石克孝・西芝雅美・村田和代編	3,600
1079		言えそうなのに言わないのはなぜか 構文の制約と創造性	アデル・E・ゴールドバーグ著 木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳	3,800
1000		知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	内田諭・大賀哲・中藤哲也編	3,600
1029		認知言語学論考 No.15	山梨正明編	9,800
1076		言語学と科学革命	山梨正明著	3,200
1005		実験認知言語学の深化	篠原和子・宇野良子編	5,400

1056		「させていただく」の語用論	椎名美智著	3,600
1037		日本語の乱れか変化か	金澤裕之・川端元子・森篤嗣編	3,800
782	日本語のテンス・アスペクト研究を 問い直す 第2巻	「した」「している」の世界	庵功雄・田川拓海編	4,200
992		[研究プロジェクト] 時間と言語	益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編	6,200
1072		テキスト計量の最前線	左古輝人編	2,800
1090		場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック	中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子 著	3,600
1059		「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門	中俣尚己著	1,800
1028		統計で転ばぬ先の杖	島田めぐみ・野口裕之著	1,400
1048	未発選書 28	マンガ学からの言語研究	出原健一著	3,500
1094	未発選書 29	トランス・モダン・リテラチャー	疋田雅昭著	5,800
1044	テキスト	ベーシック語彙意味論	岸本秀樹・于一楽著	1,700
993	ひつじ研究叢書(言語編) 第160巻	認知言語学の最前線	児玉一宏・小山哲春編	9,800
1008	ひつじ研究叢書(言語編) 第162巻	日本語文法史の視界	高山善行著	6,400
1019	ひつじ研究叢書(言語編) 第172巻	連濁の規則性をもとめて	平野尊識著	4,800
1020	ひつじ研究叢書(言語編) 第173巻	語法と理論との接続をめざして	金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編	6,000
1054	ひつじ研究叢書(言語編) 第175巻	テキスト語彙論	高崎みどり著	4,800
1057	ひつじ研究叢書(言語編) 第177巻	日本語複文構文の機能論的研究	田中寛著	8,800
1061	ひつじ研究叢書(言語編) 第178巻	日本語における短縮外来語の形成とその仕組み	文昶允著	5,000
1062	ひつじ研究叢書(言語編) 第179巻	壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究	川野靖子著	5,800
1063	ひつじ研究叢書(言語編) 第180巻	環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究	山岡華菜子著	6,800
1064	ひつじ研究叢書(言語編) 第181巻	述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造	三好伸芳著	7,000
1066	ひつじ研究叢書(言語編) 第183巻	コピュラとコピュラ文の日韓対照研究	金智賢著	7,300
1083	ひつじ研究叢書(言語編) 第184巻	現代日本語の「ハズダ」の研究	朴天弘著	6,700

■上記以外の書籍もご注文承ります。

■注文締め切り：2021年10月29日（金）まで。

■ご注文のしかた：以下のセールページをご覧ください。

https://www.hituzi.co.jp/books/hituzi_jtsj2021fall.html

■送料：660円

・2万円以上お買い上げの場合は、送料無料。1万円以上お買い上げの場合は送料330円。

・既刊と同時に、未刊の書籍をご注文（ご予約）の場合は、書籍が全て刊行された後にまとめてお送りします。

自由研究 ようこそ！ ことばの^{コトラボ}実験室へ

松浦年男著

定価 1,400 円＋税 A5 判並製カバー装 152 頁

言葉の仕組みや特徴の調べ方を小学生に向けて解説。自由研究のガイドとしても、調べ学習の参考資料としても使える。内容は、3つのワーク——①考える（「隠れた「っ」を探せ！」・「は」と「が」はどう並んでる？」）、②作る（「漢字だけ文を書いてみよう」）、③調べる（「世界のことで「日本」は何と呼ぶのか？」・「手話のことを調べよう」）で、言葉の楽しみ方がいろいろな角度から分かるよう工夫されている。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1108-3.htm>

「問う力」を育てる 理論と実践

問い・質問・発問の活用の仕方を探る

小山義徳・道田泰司編

定価 2,800 円＋税 A5 判並製カバー装 360 頁

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、鏑木良夫、亀岡淳一、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、白水始、たなかよしこ、中山晃、野崎造成、深谷達史、道田泰司、八木橋朋子

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1035-2.htm>



「書くこと」の 授業をつくる

中・高・大で教える

『はじめよう、ロジカル・ライティング』

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科+

千葉軒士著

定価 2,400 円＋税 A5 判並製カバー装 208 頁

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1041-3.htm>

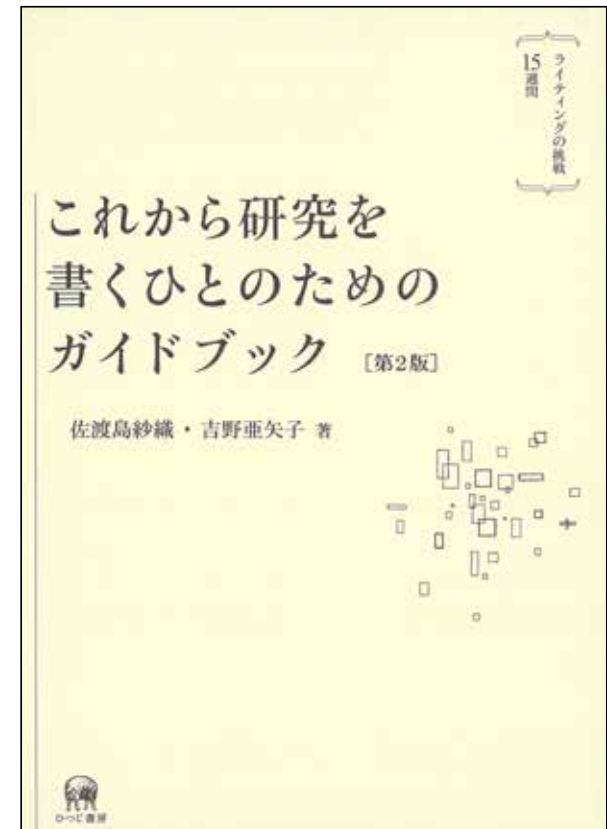
これから研究を書くひとのための ガイドブック [第2版]

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

定価 2,000 円＋税 A5 判並製カバー装 274 頁

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。2008 年に刊行した初版を改訂、時代に合った論文執筆へといざなう。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。情報満載のダウンロードデータも用意している。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1089-5.htm>

あらためて、 ライティングの高大接続 多様化する新入生、応じる大学教師

春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・

根来麻子・堀一成・由井恭子・渡辺哲司著

定価 2,200 円＋税 A5 判並製カバー装 184 頁

もとより高校と大学の間で構造的に切れてしまっているライティング教育をどうつなぐかを考える『ライティングの高大接続』の続編。今回はもっぱら大学教師の実践的研究にフォーカスし、理念と実践のベスト・バランスを目指す。「書くこと」の経験も能力もますます多様な新入生たちを迎えてなすべきは、結局「学習者のことを知って、教える」ことである。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1082-6.htm>



ビジネス文書の基礎技術

実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

石黒圭・熊野健志編

定価 1,400 円＋税 四六判並製カバー装 208 頁

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特質を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。

執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1085-7.htm>



中高生のための 本の読み方

読書案内・ブックトーク・PISA 型読解

大橋崇行著

定価 1,800 円＋税 四六判並製カバー装 226 頁

中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、後半部では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わる OECD の PISA 型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1027-7.htm>

明治・大正期国語科の 成立と修身科との関わり

文学教材は何を伝えたのか

山本康治著

定価 6,200 円＋税 A5 判上製カバー装 312 頁

明治・大正の教育は、忠君愛国とそれに基づく家族国家観の形成に向けて、修身科を頂点とした教育体系により展開していた。その中で文学教材は、修身科にあっては、「教訓・訓戒」のための題材として、国語教育実践の場においては、それらに抗う、児童主体の「想像」を重視した題材として扱われていった。本書では、当時の国語教育の実相を捉えるとともに、脱文学の方向性を示している現在の国語教育のあり方についても考察する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1075-8.htm>

明治期の 幼稚園教育と童話

小学校教育・児童文学との関わりから

北川公美子著

定価 7,200 円＋税 A5 判上製カバー装 356 頁

日本の幼稚園教育の歴史の中で、童話との関係は深く、その初期から「談話・説話」の保育項目の中で取り上げられ、現在でも教材として重要な役割を担っている。本書では、そのような童話が、幼稚園教育の黎明期である明治期において、どのように保育の中へ導入され、受容されてきたかを、小学校教育や児童文学、及び社会状況との関わりを踏まえ、実証的に検証することにより、保育内容としての童話の成立過程の一端を明らかにした。



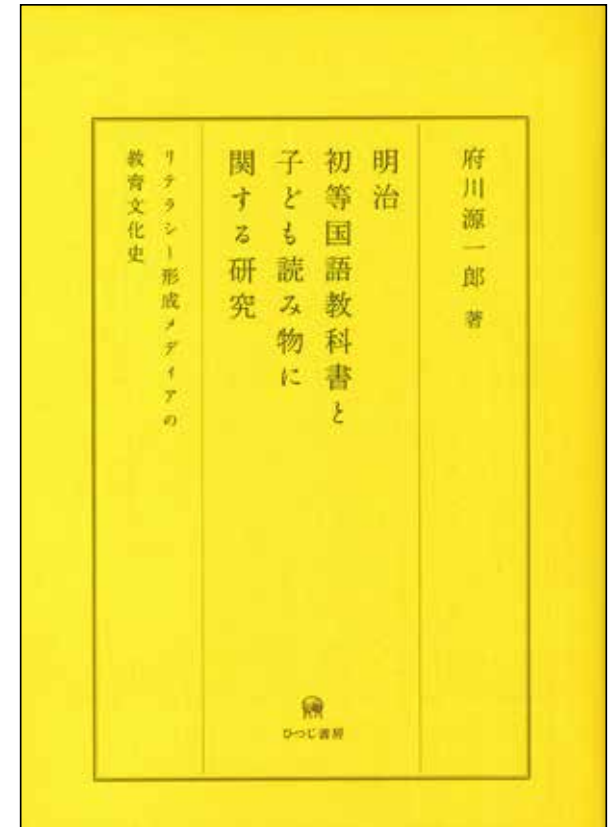
詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1084-0.htm>

明治初等国語教科書と 子ども読み物に関する研究 リテラシー形成メディアの教育文化史

府川源一郎著

定価 19,000 円＋税 B5 判上製函入り 1220 頁

明治期の子どもたちは、どのようにリテラシーを身につけたのか。そのかぎの一つは、明治期のベストセラーである『小学読本』にある。本書は、「読本＝国語教科書」をはじめとして、子ども読み物や挿絵、少年雑誌などを「リテラシー形成メディア」と捉え、それらの相互関係を数多くの新資料を駆使して解明した画期的成果である。明治初年の子ども向け翻訳啓蒙書、小学校用の読本、修身教科書と修身読み物などが取り上げられており、教科書研究として教育史研究の進展に寄与するだけでなく、その影響は、日本語史研究、文学史研究、文化史研究にも及ぶだろう。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-662-4.htm>

学校教育の言語

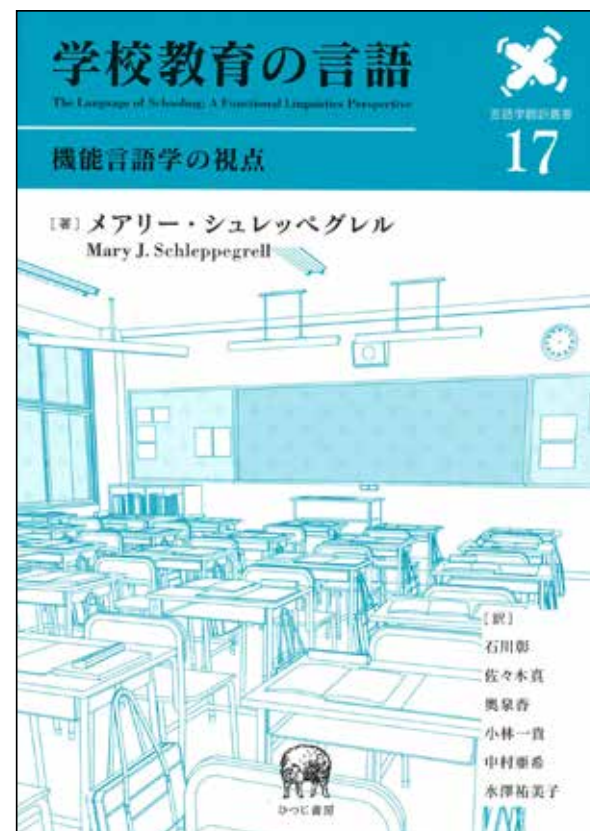
機能言語学の視点

メアリー・シュレップゲレル著

石川彰、佐々木真、奥泉香、小林一貴、中村亜希、
水澤祐美子訳

定価 3,200 円＋税 A5 判並製カバー装 296 頁

本書は学校教育の中で用いられる言語について、選択体系機能言語学を理論的な枠組みとして解説する。学校教育の言語的特徴、言語とコンテキストの関係、学問的なテキストの言語的特徴、文法と作文、科目ごとのテキストの特徴、学校での言語発達が述べられている。学校教育の中で必要な言語能力とその特徴、そしてその教育に言及されており、多くの示唆に富んでいる。語学教育だけでなく、教育全般についても参考となる良書である。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-860-4.htm>

国語科教育に求められる ヴィジュアル・リテラシーの探究

奥泉香著

定価 5,300 円＋税 A5 判並製カバー装 328 頁

言語教育（特に国語科教育）を担当する教員が、文字のみで書かれたテキストだけでなく、絵や写真、図といった図像テキスト、さらにはそれらと文章テキストとの組み合わせから意味を構築したり、発信したりする授業を構想する際に、必要となる基礎的な理論枠組みを整理・提示した。学習者を取り巻くテキスト環境の変化に対応するため、本書ではこういった情報の形態の違いを理論的・意識的に整理・活用した授業実践の具体的なアイデアも提示している。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-908-3.htm>

メタ言語能力を育てる 文法授業

英語科と国語科の連携

秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦編

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 304 頁

英語を教えるには、授業は英語で行うことが本当に効果的なのか？
本書は、日本の言語教育の現場においては、むしろ母語を用いて高次元から文法を分析・理解する「メタ文法能力」を育成することが学習者の国語力、英語力、さらには他の外国語能力の向上につながることを、東京大学教育学部と同学部附属中等教育学校の共同研究を元に論じるものである。

執筆者：斎藤兆史、柗木貴之、王林鋒、越智豊、沖濱真治、大井和彦、藤江康彦、藤森千尋、三瓶ゆき、大津由紀雄、秋田喜代美

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-896-3.htm>



読書教育の未来

日本読書学会編

定価 5,000 円＋税 A5 判並製カバー装 384 頁

日本読書学会設立 60 周年を記念して企画された「読書」にかかわる研究・実践の集大成。読書と発達、読むことの科学、読書と教育、社会生活と読書など、これまで教育心理学、国語科教育等の分野で示されてきた「読書」に関連する研究・実践の成果を幅ひろく取り上げるとともに、未来に向けて最新の研究動向や教育実践を様々な視点・論点から考察している。研究者、教員、学生、図書館や自治体、出版関係者はもとより、読書に関心を持つすべての人に価値ある情報を提供する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-938-0.htm>

大学が地域の課題を 解決する

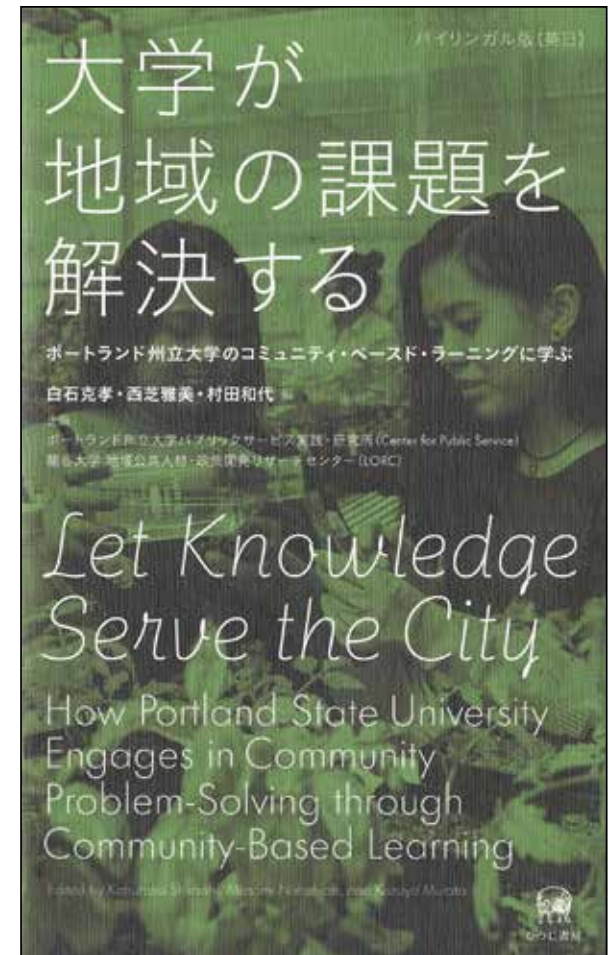
ポートランド州立大学の
コミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ

白石克孝・西芝雅美・村田和代編

定価 3,600 円＋税 A5 変形並製カバー装 288 頁

大学に求められる新たな役割とは。本書では、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。バイリンガル版(英日)。
執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、スティーブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーン・フィッツモウリス、向野也代、ジェニファー・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1003-1.htm>



言えそうなのに 言わないのはなぜか

構文の制約と創造性

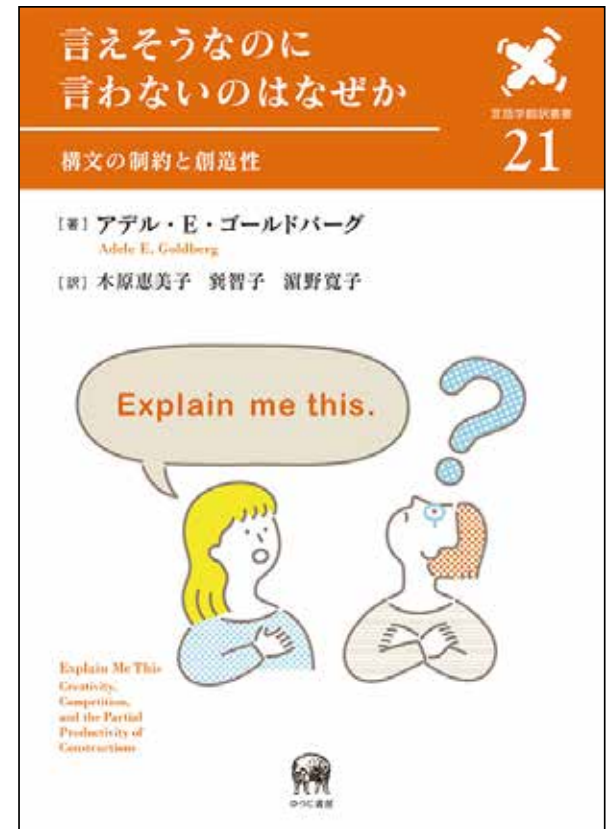
アデル・E・ゴールドバーグ著

木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳

定価 3,800 円＋税 A5 判並製カバー装 288 頁

絶えず変化するコンテキストの中で私たちは構文を創造的に使用する。しかしその一方で「言えそうなのに言わない」表現が存在する。たとえば explain me this は言えそうなのに英語母語話者は言わない。創造的でありながら制約が多い言語を子どもや大人はどのように学習するのか。本書はさまざまな構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら、この問いを探ってゆく。構文文法を初めて学ぶ読者にも薦められる一冊。原著：Adele E. Goldberg（著）Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1079-6.htm>



知を再構築する 異分野融合研究のための テキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 268 頁

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング（TM）に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編では TM の理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野における TM の実践的な研究例を提示する。

執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、畑島英史、秦正樹

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1000-0.htm>



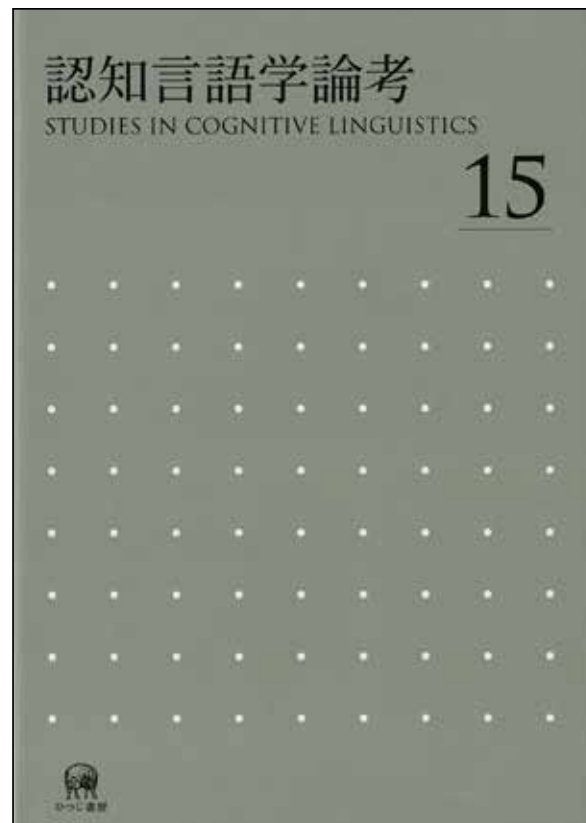
認知言語学論考 No.15

山梨正明編

定価 9,800 円＋税 A5 判上製カバー装 324 頁

認知言語学の最先端の論文を継続的に掲載するシリーズ第 15 巻。国内外の第一線の研究者の論文を掲載し、多岐にわたる認知言語学や関連する言語学の最新研究成果が交流する。

認知言語学の出現の背景と言語研究の新たな展望 山梨正明／身体投射 沖本正憲／時間の流れに関する認知言語学的考察 吉本一／《指示》の文法を考える 深田智／相互行為における指示の構造と指示表現の選択 平田未季・山本真理／商標言語学 五所万実／特定のインスタンスに成立するメトニミーの理解過程について 伊藤薫／命令・禁止表現から接続表現へ 朱冰・堀江薫／逆接「～ながら」の周辺事例的解釈 梶川克哉



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1029-1.htm>

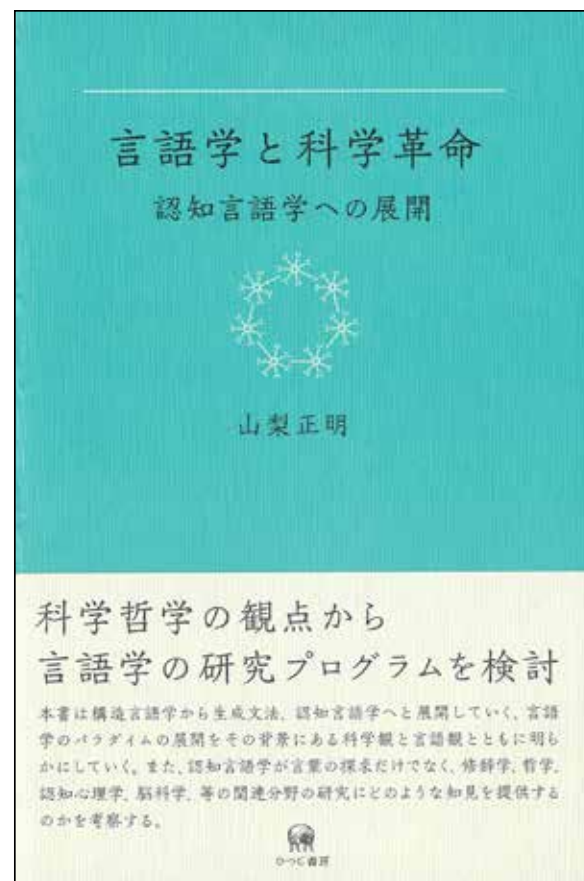
言語学と科学革命

認知言語学への展開

山梨正明著

定価 3,200 円＋税 四六判上製カバー装 216 頁

本書は、科学哲学の観点から、言語学における新たな言語理論の展開のメカニズムの諸相を明らかにしていく。特に、生成意味論を母体として出現した認知言語学の科学的探求の方法を、科学哲学のパラダイム変換の観点から考察する。また、認知言語学の研究が、言葉の探求だけでなく、修辞学、哲学、認知心理学、脳科学、等の関連分野の研究にどのような重要な知見を提供するかを考察していく。言葉と知のメカニズムの研究への新たな指針となる一冊。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1076-5.htm>

実験認知言語学の深化

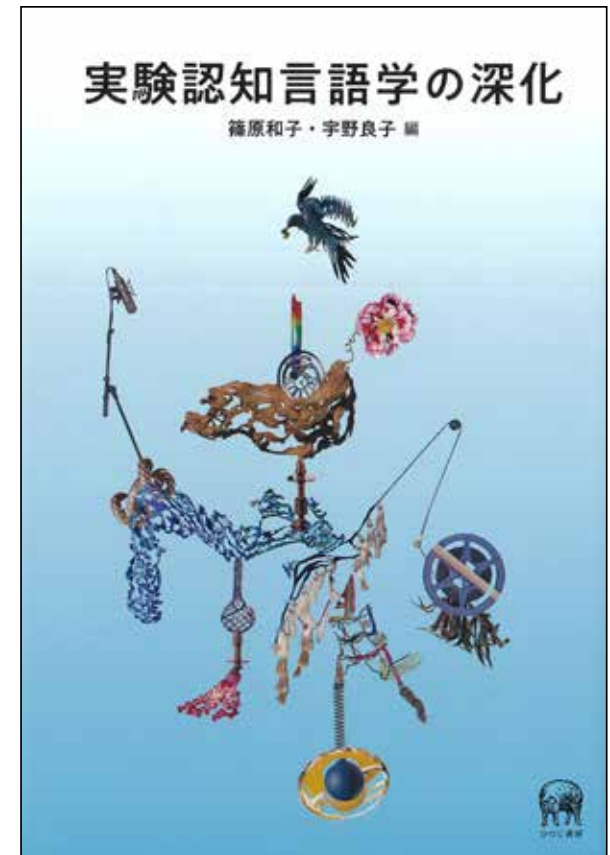
篠原和子・宇野良子編

定価 5,400 円＋税 A5 判上製カバー装 280 頁

2008 年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来 10 年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobin など実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。

執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1005-5.htm>



「させていただく」の 語用論

人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著

定価 3,600 円＋税 A5 判上製カバー装 304 頁

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマン的枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1056-7.htm>

日本語の乱れか変化か

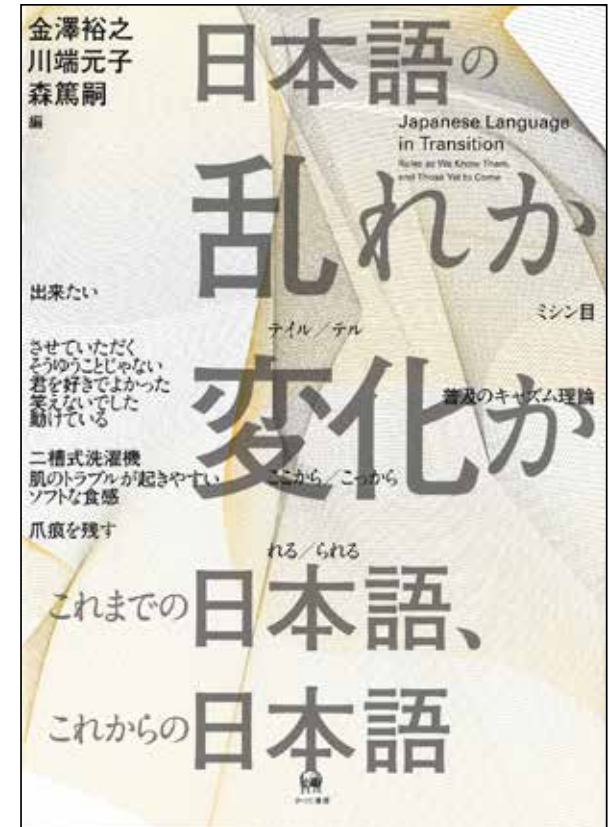
これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

定価 3,800 円＋税 A5 判並製カバー装 272 頁

ルールからの逸脱というとは一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの 1 冊。

執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1037-6.htm>

日本語のテンス・アспект研究を 問い直す 第2巻 「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

定価 4,200 円＋税 A5 判並製カバー装 332 頁

シリーズ『日本語のテンス・アспект研究を問い直す』の第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アспект・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。

執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠億、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福島健伸、松田真希子、和田尚明

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-782-9.htm>



[研究プロジェクト] 時間と言語

文法研究の新たな可能性を求めて

益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

定価 6,200 円＋税 A5 判上製カバー装 352 頁

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。

執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-992-2.htm>



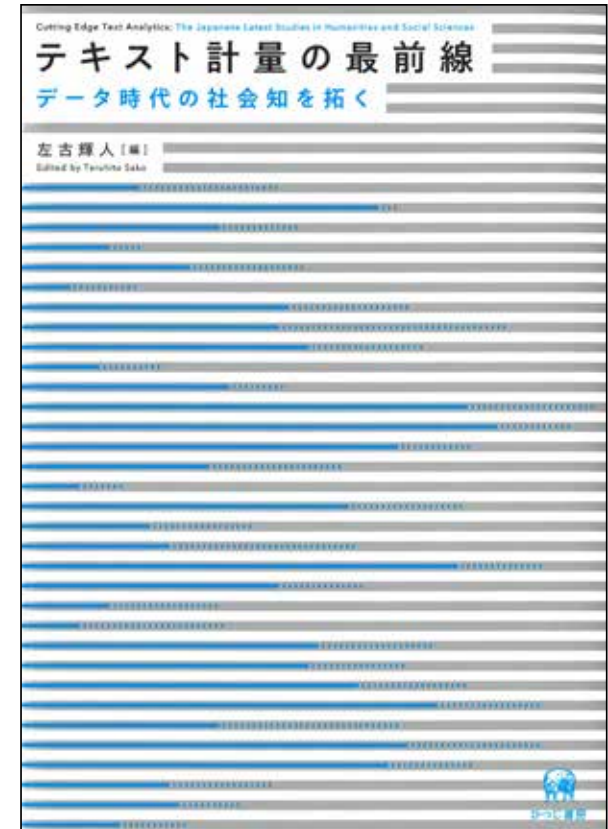
テキスト計量の最前線 データ時代の社会知を拓く

左古輝人編

定価 2,800 円＋税 A5 判並製カバー装 176 頁

近年、計読（テキストマイニング、テキストアナリティクス、計量テキスト分析、質的データ分析）は人文・社会科学の多岐にわたる領域で応用が進みつつある。本書は単なるハウツーではなく、具体的な課題に計読の諸技法を本格的に適用した研究成果を集めた。思想史・概念史、学説研究、ジャーナリズム言説の分析、研究者ネットワークの分析など、研究会での議論を通じた切磋琢磨を経て、現代日本の計読研究の規準を提示する。

執筆者：河野静香、左古輝人、鈴木努、橋本直人、樋熊亜衣、前田一歩



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1072-7.htm>

場面とコミュニケーションで わかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・
大谷つかさ・寺田友子著

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 484 頁

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識，文法用語，主要な教科書との対応，母語話者の使用実態，誤用例，授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。この本を持っていれば代表的日本語教科書の文法ガイドにもなる。国内外の日本語教師の必携書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1090-1.htm>

「中納言」を活用した コーパス日本語研究入門

中俣尚己著

定価 1,800 円＋税 A5 判並製 208 頁

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3 部構成。第 1 部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第 2 部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第 3 部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1059-8.htm>

統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著

定価 1,400 円＋税 A5 判並製カバー装 128 頁

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げていく。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1028-4.htm>

未発選書 28

マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐって

出原健一著

定価 3,500 円＋税 四六判上製カバー装 260 頁

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるよう新たな視点理論の提案を試みる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1048-2.htm>

未発選書 29

トランス・モダン・ リテラチャー

「移動」と「自己」をめぐる

芥川賞作家の現代小説分析

疋田雅昭著

定価 5,800 円＋税 四六判上製カバー装 582 頁

「自己」が近代文学が拘り続けたテーマであることは言を俟たないが、現代文学は統一され安定した「自己」そのものへの不信から始まっている。ともに時空を「移動」し続ける存在としての読者とテキストが会う結節点。そこから変容しながらも繰り返し立ち上がってくる主体こそが現代文学が語る「自己」にほかならない。本書は「自己」と「移動」に着目し芥川賞受賞作家のテキストから平成という時代の諸相を読み込む試みである。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1094-9.htm>



ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

定価 1,700 円＋税 A5 判並製カバー装 144 頁

語彙には歴然とした体系性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1044-4.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 160 卷

認知言語学の最前線

山梨正明教授古希記念論文集

児玉一宏・小山哲春編

定価 9,800 円＋税 A5 判上製函入り 416 頁

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端でどのようなことがおこっているかということを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。

執筆者：ロナルド・W・ラネカー、吉村公宏、高橋英光、野村益寛、中村渉、堀江薫・江俊賢、靱山洋介、菅井三実、谷口一美、早瀬尚子、大森文子、八木橋宏勇、松本曜、大月実、森雄一、篠原和子、堀田優子、渋谷良方

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-993-9.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第 162 卷

日本語文法史の視界

継承と発展をめざして

高山善行著

定価 6,400 円＋税 A5 判上製函入り 288 頁

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1008-6.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 172 卷

連濁の規則性をもとめて

平野尊識著

定価 4,800 円＋税 A5 判上製函入り 216 頁

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1019-2.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 173 卷

語法と理論との 接続をめざして

英語の通時的・共時的広がりから考える
17 の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

定価 6,000 円＋税 A5 判上製函入り 384 頁

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を 17 編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる 1 冊である。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1020-8.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第 175 卷

テキスト語彙論

テキストの中でみる

ことばのふるまいの実際

高崎みどり著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 248 頁

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論や CDA（批判的ディスコース分析）にも目配りしている。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1054-3.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第177巻

日本語複文構文の 機能論的研究

田中寛著

定価 8,800 円＋税 A5 判上製函入り 434 頁

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導的機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1057-4.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 178 卷

日本語における 短縮外来語の形成とその仕組み

文昶允著

定価 5,000 円＋税 A5 判上製函入り 164 頁

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成（例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象）の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因（音節構造や同音連続）に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1061-1.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 179 巻

壁塗り代換をはじめとする 格体制の交替現象の研究

位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1062-8.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第180巻

環大阪湾地域における アクセント変化の研究

山岡華菜子著

定価 6,800 円＋税 A5 判上製函入り 258 頁

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえ明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1063-5.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 181 卷

述語と名詞句の相互関係から見た 日本語連体修飾構造

三好伸芳著

定価 7,000 円＋税 A5 判上製函入り 284 頁

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1064-2.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第183巻

コピュラとコピュラ文の 日韓対照研究

金智賢著

定価 7,300 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

本書は、現代日本語と韓国語の多様なコピュラ文の対照分析を通じ、両言語のコピュラ構造並びにコピュラ形式「だ」「ita」の特徴を明らかにしようとするものである。基本型コピュラ文の意味論的分析をはじめ、一項名詞文、ウナギ文、動作性名詞述語文、拡張型コピュラ文、分裂文、さらに、コピュラ及び属格助詞に関わる名詞修飾構造等を対照的に取り上げることで、日韓のコピュラやコピュラ文の根本的かつ総体的な理解に迫る。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1066-6.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第184巻

現代日本語の 「ハズダ」の研究

朴天弘著

定価 6,700 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報（知識）に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1083-3.htm>